

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577800232		
法人名	医療法人 豊愛会		
事業所名	医療法人 豊愛会 ほうみ苑		
所在地	下関市豊北町栗野2397番地		
自己評価作成日	平成22年8月15日	評価結果市町受理日	平成23年2月4日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年9月14日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設施設が病院である為、医療面でのサポートは昼夜問わず万全です。その人に合った地域との関わり、安全で穏やかな生活が送れる様に支援しています。家族会でもみじ狩り・誕生会など交流を大切にしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の病院が隣接しており、看護師の定期訪問や重度化した利用者の対応、緊急連絡網の整備等の医療連携体制は、家族や利用者にとっての安心感につながっています。法人内の豊富な研修や外部研修への積極的な推進体制で、職員のレベルアップを図る取り組みをされています。今年度から、運営推進会議のメンバーとして地域の消防団員の参加があり、防災について火災時の協力が得られることになるなど、運営推進会議を活かした取り組みをされています。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き生きと働けている	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を作成、掲示し一人一人に合った支援を行っています。	理念は、施設内に掲示されており、パンフレットやホーム便りにも掲載して、周知を図っている。又、管理者や職員はミーティング等で理念を共有しながら、日々のケアに活かせるよう積極的に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会内の商店での買い物、行事への参加をし地域との交流をしています。	法人として自治会に加入し、清掃や地蔵祭り等の地域行事にも参加している。法人主催の夏祭りに小学生の参加があり、地元の中学生の職場体験を受け入れたりと積極的に地域の人と交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、地域行事参加している際に、日常生活での支援についての説明を等行っています。		
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で自己評価をし外部評価結果の改善項目を検討しています。運営推進会議で報告を行い助言をうけています。	自己評価は、管理者がそれぞれの項目について職員から直接意見を聞き、その内容を基に作成している。	改善課題への取り組み
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑内で会議を開き、ホームの状況報告・入所者さんとの顔合わせ・会食等を行っています。取り組み状況報告し話し合いを行い助言をうけています。	2か月1回開催し、利用者の現況や行事報告、外部評価への取り組み状況等について話し合い、意見をもらいサービスの質の向上に努めている。今年度から、消防団の分団長の参加を得ている。	
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告・相談等を通じてサービスの向上に努めています。	市民生活課とお互いに情報交換を行っている他、日常の相談に応じてもらっている。	
7	(6)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	主治医と相談を行い指示を受けています。職員も認識しています。	マニュアルを作成している。職員は理解して、抑制や拘束のないケアに努めている。	身体拘束をしないケアの研修の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で防止を徹底しています。		
9		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度利用された入所者があり個人情報を漏らさないよう関係職員と話し合っています。		
10		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の内容を理解し、納得されるように十分説明しています。		
11	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人施設に苦情箱が設置され苦情解決委員会を月1回開催しています。	運営推進会議や家族の来訪時に意見や要望を聞いている。苦情相談窓口を設け、担当者、第三者委員、外部機関も明示して契約時に充分説明している。法人で行われる苦情解決委員会にも参加し検討している。	
12	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティング時またはその都度の意見はすぐに反映しています。苑のみで解決できない事は、法人の業務改善委員会に提案しています。	月1回行う職員全体のミーティングで、運営に関する意見や提案を聞く機会を設け、管理者はその意見やアイデアを運営に反映させている。	
13		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営会議または管理者会議等で話し合いをおこなっています。資格取得へのサポートなどおこなっています。		
14	(9)	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修、他の研修を受ける機会を確保しています。	外部研修は、職員の希望に応じて受講できるよう配慮し、法人内研修には年間を通して職員が受ける機会を確保している。	
15		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会を通じて勉強会、相互訪問しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、本人の意向を聞き、意向を受け止める努力をしています。		
17		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や見学に来られた時から意向をお聞きし希望に添っています。		
18		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学に来られた時から他のサービス利用も含めた対応に努め理解していただいています。		
19		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中での活動を通じて学び支えあっています。野菜作りをおこなっています。		
20		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を報告して家族の方にも協力をお願いし、本人が安心して生活が送れるように支援しています。		
21	(10)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の方が面会に来られています。地域の方は散歩、行事参加を通じて交流の継続に努めています。	利用者の知人や友人などには気軽に着てもらえるよう配慮しており、併設の病院の知り合いのところに出かけることもある。また、なじみの美容院に行く機会も設けている。	
22		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、散歩、外気浴を通じて交流に努めています。		
23		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況をお尋ねしたり通所リハビリを利用される方の顔を見に行ったりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人の意向を把握し日常生活の会話でもお聞きしミーティングで検討して本人の希望に添うようにしています。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、ミーティングで検討している。	
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴などをお聞きしてその方らしい生活の支援をしています。		
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	理念に掲げているように、一人一人の違いを把握しその方らしい生活ができるようにしています。		
27	(12)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で検討した家族の方にも相談協力をお願いしてその方にあった介護計画を作成しています。3ヶ月ごとにモニタリングを行っています。	管理者、利用者の担当職員が中心に、3か月毎にケアカンファレンスを開催し、家族や利用者の意見(面会時や電話連絡時の要望)を参考にしながら介護計画を作成している。	
28		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、介護記録を記入しています。介護計画は月末に評価して次の見直しに役立っています。		
29		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の意向によりリハビリ、また各種病院行事には積極的に参加しています。		
30		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に運営推進会議の委員になって頂き協力を得て地域資源が活用できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関で定期的に受診されています。標榜診療科のない科は往診または職員、家族支援により対応しています。(眼科、歯科等)	利用者、家族等の希望を大切に、納得してもらった上で、現在の主治医にかかっている。定期的な往診の他、緊急時や不安な時でも安心して受診が出来るよう支援している。	
32		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関である豊北クリニックより週3～4回看護師による健康管理、医療活動の支援をうけています。		
33		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には医師、看護師と頻りに連絡を取り情報を得るようにしています。		
34	(14)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り看護についての同意書を交わし重度化された場合は再度、家族・医療機関本人と話し合っています。 家族・本人が希望される限り介護支援しホームで対応できないような医療的行為が必要になった場合は入院をお願いしています。	重度化した場合における話し合いの場を主治医や家族、関係者と持つようにしており、出来る限りその人の思いに寄り添う事が出来るよう支援している。	
35	(15)	事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルの作成、緊急事態に対応した院内研修があります。	事故防止、緊急対応マニュアルや緊急連絡体制づくりは整備されている。応急手当や初期対応の定期的な訓練は行われていない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を通じ普段から交流を取り連絡網を確保し協力を得ている。	年2回消防署の協力で避難訓練を行っており、非常時に備えている。今年度から運営推進委員会議に地区の消防団の人に参加してもらうことになり、防災についての協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念に掲げ、日々の介護に実践している。	利用者の尊敬の念については事業所の基本理念の中にうたっているが、プライバシーに関するマニュアルの作成や研修の実施については十分とはいえない。	・プライバシーに関するマニュアルの作成と研修の実施
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を取り入れ支援しています。		
39		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活歴を考慮して読書(新聞、雑誌)縫い物(雑巾)、園芸などを支援する。		
40		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理・美容院に行かれる。また希望される美容院での髪染め等にも行かれています。		
41	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じものを食し、おかゆ・キザミ・塩分控え・ミキサー食とその人に合った支援をしています。台拭き、おぼん拭き、片付けされています。	食事は法人からの提供で、カロリーや栄養バランスは考慮され、利用者が食べやすいように工夫している。利用者のできることを一緒にし、職員も同じものを食べて、食事が楽しめるよう支援している。	
42		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量をチェックしその人に合った支援をしています。 ミキサー食、キザミ、おかゆ等		
43		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、うがい、各自に応じた支援をしている。義歯は夜洗浄剤につけ保管している。 歯ブラシ、コップは週1回消毒、乾燥します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターン、介助方法を把握しその人に合った支援を行っています。	利用者の一人ひとりの排泄パターンを把握して、可能な限りオムツを使用しないですみように、声をかけてトイレ誘導している。	
45		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記入を行っています。一人一人に運動を促しています。		
46	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望を聞き入浴の支援をしています。毎日の入浴も可能です。	入浴は毎日可能で、13時～16時に一人ひとりゆっくりと入浴を楽しめるよう支援し、風呂嫌いの利用者には、タイミングを見て時間をずらすなど職員が色々と工夫し支援している。体調によりシャワー浴、清拭、足浴等工夫している。	
47		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベット使用、布団使用、また睡眠時間も本人の状況に応じて支援しています。		
48		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の服薬注意事項、副作用表を保管して理解しています。看護師、医師に相談してフィードバックしています。		
49	(21)	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書、縫い物、園芸、歌、外気浴、散歩などで気分転換し活力ある生活支援をしています。	野菜作りや縫い物、洗濯物を干したり、たたんだり、花に水をやったり、水まんじゅう等のおやつ作りなど、一人ひとりの出来る力を引き出し、日々の生活の張り合いとなるような工夫している。	
50	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入所者の希望に沿っておだいし様参り、散歩、散髪、買い物と支援しています。また年に何度か車でのお出かけを行っています。花見、もみじ狩り、買い物を兼ねてのドライブなど。	天気の良い日には出来るだけ病院内や外周を散歩したり、時には美容院、スーパーへの買い物、花見(桜・コスモス等)外出を楽しめる支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理ができる方は本人が、できない方は職員が管理しています。(おやつ代程度)</p>		
52		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>暑中見舞い、年賀状を出しています。電話で家族と話せるよう支援しています。</p>		
53	(23)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花をこまめに生ける。玄関先、居間、トイレ、廊下に季節に関する飾りつけ。窓を開放して外気をいれる。</p>	<p>民家を改造した作りは、玄関から廊下、居間へと家庭的なたたずまいが続いている。特に食堂と兼ねている居間には、行事の写真や利用者の似顔絵が飾られ、仲の良い利用者同士がくつろげる空間となっている。</p>	
54		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自由な暮らしを支援する。</p>		
55	(24)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭で使用されていた家具などを持参されている。</p>	<p>持ち込みについては、入居前に利用者や家族とよく話し合い、元々あった部屋を上手に利用し、家族の写真、絵画、仏壇、テレビ等を持ち込まれており、利用者の混乱を防ぎ安心感を持って過ごせるよう工夫をしている。</p>	
56		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人一人の違いを把握し自立に向けた支援をしている。表札など工夫して掲示している。</p>		

## 2. 目標達成計画

事業所名 医療法人豊愛会 ほうみ苑

作成日: 平成 23年 1月 10日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	急変や事故発生時に備えた応急手当や初期対応の訓練が行われていない。	定期的な訓練、勉強会を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師による勉強会を計画し実施する。</li> <li>自己学習を行いスキルアップを図る。</li> </ul>	6ヶ月
2	50	外出の機会を増やしたい。	外出の機会を増やし楽しみがもてる様支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事作りの前に入所者と買い物へ行き、一緒に献立を考えながら買い物を行なう。</li> <li>地域の行事への参加。</li> </ul>	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。